

---

## 2. 問題点と課題の整理

### 2-1. 現況の問題点

本公園の再整備に係る計画の策定における問題点と課題の整理を行った。

かつてモミジの名所として、近畿圏をはじめ全国から多くの来訪者を迎えた竜田公園だが、昭和40年代以降の河川改修と住宅開発による周辺環境の変化や、公園供用時または河川改修時からの植栽の変化により、その姿を変えている。

また、公園供用時から施設の大規模な更新や新設がなく、一般的な公園の管理水準と比べて不十分な点も見られる。

#### 2-1-1. 植栽・景観等の問題点

##### (1) 竜田川のモミジ

竜田公園はかつてモミジの名所として名をはせていたが、樹勢が低下し魅力が大きく低下している。これは、一般的にイロハモミジ等は、西日が強く当たる場所では生育が難しいとされるが、堂山地区周辺のように、生育が悪い範囲があるなど特に日当たり条件だけでなく、水や土壌条件等が影響している可能性が考えられる。



図2-1 生育状況の悪いモミジ

##### (2) 三室山のソメイヨシノ

三室山のソメイヨシノは、植栽から約60年が経過している。三室山のソメイヨシノは、近畿圏でも広く知られる花見の名所となっており、開花時期には多くの花見客が訪れている。一般的にソメイヨシノは60年程度で樹勢が衰えはじめることが指摘されていることから、今後は三室山のソメイヨシノの植栽景観の方向性についての検討が必要である。



図2-2 植栽後60年を経過するソメイヨシノ

### (3) 展望や見通しの確保

三室山や堂山地区は、もともと信貴山～生駒山や矢田丘陵の山並の展望や、斑鳩の里、竜田川の川面、法隆寺五重の塔といった良好な展望が得られる場所であった。

しかし現在では、植栽樹木の生長、常緑樹やマダケ・クズの繁茂といった植栽要素の変化により、かつては享受できていた展望が確保できない状況にある。

また、河川への転落防止のための生垣植栽や、中低木植栽等は、維持管理に手間を要するだけでなく、見通しを阻害する要因にもなっている。



◇眺望が悪化した三室山から竜田川



◇三室山からの見通しを阻害する常緑樹



◇眺望が悪化した堂山地区から三室山



◇堂山地区の見通しを阻害する常緑樹

図2-3 悪化した景観

## 2-1-2.公園施設等の問題点

### (1) 安全性・バリアフリー

竜田公園の園路は、子供から高齢者、移動制約者等多様な利用がある。

これまで、安全性、バリアフリーを考慮した施設の整備が不十分であったが、平成 27 年度「県立竜田公園 バリアフリー実施設計委託（単独都市公園事業）」が実施され、親水広場へのスロープや竜田川沿い園路の改善検討がされており、順次整備が進められているものの、トイレ等の施設のバリアフリーへの対応が不十分である。

なお、三室山地区は、地形的に急勾配のためバリアフリーへの対応は困難であり、対象外とする。

堂山地区では、園路舗装、手すり、視覚障害者誘導用ブロック等のバリアフリー整備が不十分な状況である。

また、樹木の過生長から、死角となる場所があり、防犯面についても問題がある。樹木の過生長や植栽の過密度となっている空間は河岸エリアにもあり、夏場の樹木の繁茂期には暗いイメージとなっている。竜田川の河岸転落防止は、生垣で構成されているが、部分的に欠損がみられ、護岸斜面への転落の危険性がある。



◇念仏橋上流 狭隘な園路と過密度の植栽



◇生垣が転落防止の機能を担う



◇堂山地区 急峻な階段園路



◇三室山 狭隘な園路

図 2-4 バリアフリー未整備・安全性に問題がある箇所

## (2) 公園施設の利用状況

公園の利用状況は、高齢者の利用が多い一方、子供の利用が少なくなっており、堂山地区に設置されている遊具の利用も少ない。

モミジとサクラの時期には賑わいを見せるが、平常時、特に夏場の利用が少なく、モミジとサクラ以外の公園の魅力に欠けている。また、紅葉祭りの際には、多くの来訪者により混雑するため、動線機能等に支障をきたすこともある。

竜田川沿いには4カ所の親水広場があるが、公園と河川の一体的な活用がされておらず、河川沿いの特色、魅力の発信が不十分である。



◇堂山地区の遊具



◇公園駐車場



◇親水広場 樹木が茂り河川空間と公園空間が分断されている



◇紅葉祭りの混雑 紅葉橋付近

---

### (3) 施設機能と老朽化

全般的に休憩施設の不足や老朽化の進行がみられ、日常的な公園利用、観光地としての観点からも“おもてなし”の機能が不十分である。

堂山地区では、竜田川沿いの堂山橋、紅葉橋から展望の良い堂山地区上部への園路が明確でないことや、勾配の急な園路への対応、ベンチ等のサービス施設が不足している。

河岸エリアでは、一定の間隔でベンチ、東屋、パーゴラなどの休憩施設が配置してあるが、施設の老朽化が進んでいる。また、園路の幅員、素材が一定でないことや、経年劣化による破損箇所があり、歩きづらい区間がある。

堂山や三室山など眺望性の優れた山があるにもかかわらず植栽の繁茂により、ゆったり景色を楽しむ視点場や公園の情報を提供するサイン等のサービスが不足しているほか、全体的にサインの存在がわかりにくく、設置数も少ないことから、公園の魅力を伝える情報が不足している。

具体には、三室山の入り口舗装面には地図表示があるものの、来園者に公園の各エリアや施設配置を示す表示案内は無く、初めての来訪者にとってはエリアや施設の位置関係等がわかりにくいことや、三室山の頂上部、堂山地区の広場部及び念仏橋左岸橋詰に地域の歴史に関する解説サインが設置されているが、眺望と連携した配置となっていないことが挙げられる。

また、竜田川沿いの園路部には、公園利用に関する注意サインが多数設置されているが、景観的観点や公園利用者目線から見ると、様々な形式のサインが混在しており、景観的な魅力や心地よい利用環境を損なう要因となっている。

堂山地区へつながる紅葉橋と堂山橋は、高欄の塗装や床面の劣化がみられる。



◇園路幅員 2.0m、舗装経年劣化の状況



◇ベンチ、パーゴラ経年劣化の状況



◇紅葉橋の現況



◇堂山橋の現況

図 2-5 施設の経年劣化状況

#### (4) 周辺観光資源、周遊ネットワーク、アクセス

竜田公園は、斑鳩町の西端に位置しており、法隆寺や藤の木古墳等の知名度の高い観光地中心部から、やや離れた位置にある。このため、県中心部からの観光客の流動は少なく、和歌等による竜田川のみやサクラ以外の公園の認知度も低いものと考えられる。

観光情報では「<sup>はなこうじ</sup>花小路せせらぎの道」及び「<sup>ふじのき なりひら</sup>藤ノ木・業平つれづれの道」等の観光周遊ルートが設定されているものの、これらの観光情報と連動したサイン等がなく、観光ネットワークの連携が不十分である。

公園の導入部となる竜田大橋交差点や岩瀬橋交差点は交通量が多く情報発信に適した場所であるが、公園名板等がなく、公園の存在を認識しづらい状況にある。



背景地図) 国土地理院撮影の空中写真(2008年撮影)

図 2-6 周辺の位置図





◇<sup>ふじのき</sup>藤ノ木・<sup>なりひら</sup>業平つれづれの道



◇三室山入り口の路面表示



◇歴史解説サイン（三室山頂上部）

---

## 1) 駐車場について

本公園は公園最寄りのJR王寺駅から約1.5kmの位置にあり、広域からのアクセスは、公園駐車場（普通車22台、小型バス2～3台）が整備されているが、混雑時等には収容台数が不足していると考えられ、車によるアクセス機能は不十分である。

### ① 必要駐車台数

もみじ祭り等の混雑時における必要駐車台数について、以下の方法により算出した。

$$\text{必要駐車台数} = \text{年間日最大来園者数} \times \text{自動車利用率} \div \text{1台あたりの同乗者数} \times \text{回転率}$$

各パラメータは以下のとおり設定した。

- ・年間日最大来園者数：2,500人/日（過年度実績）
- ・自動車利用率：76.8%（H26年度アンケート調査結果）
- ・1台あたりの同乗者数：3人（造園ハンドブック（日本造園学会）における自動車1台あたりの同乗者数は2～3人/台とされていることから、家族連れを主たる利用層として3人/台と設定）
- ・回転率：1/5（もみじ祭りの開催時間5時間（10：00～15：00）のうち、1人あたりの滞在時間を1時間と想定し、回転率は1/5と設定）

以上より、必要駐車台数は128台となる。

現在の竜田公園駐車場の駐車台数は普通車22台、小型バス2～3台のため、もみじ祭りなどの混雑時等には収容台数が不足する。

## 2-1-3.維持管理上の問題点

### (1) 施設管理

平成23年2月に策定された「県立竜田公園 公園施設長寿命化計画策定業務（竜田公園）」の中で、既存ストックの将来的な施設維持管理の方針について検討されているものの、応急処置的な対応に留まっている。

### (2) 植栽管理

植栽管理については、定期的な灌水、草刈り、剪定等が必要であり、体制の構築が十分とはいえない。

現在の公園内の植栽管理は場所によって管理水準に差があり、草刈り、選定など通常の植栽管理に関しては、十分な状況ではない。

各種団体、ボランティア等の協力により、積極的な維持管理活動が行われ、一定の成果を得ているものの、管理に対する要望も多い。

---

## 2-2. 計画に向けた課題の整理

### 2-2-1. 課題点の整理

#### (1) 植栽景観の育成（竜田川のもみじ、三室山のソメイヨシノ）

竜田公園の大きな魅力である歴史ある竜田川のもみじと三室山のソメイヨシノは、貴重な地域資源として未来へ継承していくことが期待される。将来的な植栽の育成を考慮した、樹木の性質に配慮した環境への改善が求められる。

また、三室山のソメイヨシノは、老木の更新も視野に入れる必要がある。

#### (2) 展望や見通しの確保

三室山や堂山地区における植栽樹木の過生長、下草の繁茂等、良好な周辺眺望の景観阻害要因を改善する必要がある。

公園の各所において、景観的な改善を行い、もみじとサクラの名所としての景観再生を行う視点場の整備が必要である。

#### (3) 安全安心の公園づくり

公園施設の現状を踏まえ、園路や公園施設のバリアフリー整備が必要となる。

竜田川沿いの園路は、生活道路の機能を担っており、安全に通行できる幅員の確保、バリアフリーの整備が必要となるほか、安全に配慮した河川への転落防止柵の設置及び川面への見通し確保が必要である。

また、死角となる空間や樹木の過生長による暗いイメージなど、防犯へ配慮した空間・景観計画が必要となる。

#### (4) 一年を通じて利用者を誘引する魅力づくり

もみじとサクラの時期には賑わいを見せるが、それ以外の時期や平常時に利用者が少ない現状を踏まえ、一年を通して利用者を誘引する魅力づくりが求められる。

四季の植栽による景観演出や日常的に利用できる公園機能、祭りやイベント等の非日常的な利用が出来るスペース、河川空間との一体利用等、多様な魅力創出により年間を通じて利用者を誘引する魅力づくりが求められる。

#### (5) 子供から高齢者まで幅広い世代が利用できる魅力づくり、活気のある公園づくり

少子高齢化による影響は当該公園の利用実態にも影響があり、高齢者の利用が多い一方で子供の利用が減少している。地域の活力創出の観点からも、子供の利用促進が必要である。

子供の日常的な公園利用に加え、学校の遠足先や課外活動の場としての利用等、地域の教育機関等との連携による計画が求められる。

一方で、高齢者が安心して利用できる空間の創出、景観づくり等、幅広い世代が利用できる魅力づくり、活気のある公園づくりが必要である。

---

## **(6) サービス機能の向上**

日常的な公園利用者及び、観光客へのおもてなしとしてのサービス施設等の充実が求められる。また、休憩施設や来訪者の移動を支援するサイン等の情報提供の機能の充実や老朽化施設の改修による公園のイメージアップが求められる。

## **(7) 観光情報や歴史街道散策ネットワークとの連携**

本公園は、公園単独での取組に加え、周辺観光資源や歴史街道散策ネットワークとの連携化を図ることで、より多くの来訪者を獲得する事が可能と考える。

また、公園情報を含め、周辺の観光情報が不足しており、観光地としての魅力を更に高めるためには、広域的連携の中で、情報発信のツールを見直し、県と斑鳩町など周辺市町との連携の充実を図る必要がある。

## **(8) アクセス機能の改善**

公園の立地条件からアクセス環境は不十分であり、歴史街道散策ネットワークや観光ルート等との連携によりその機能を補完する必要がある。

また、イベント時における駐車場の不足に対しては、公共交通による来訪の呼びかけや周辺駐車場との連携を図る必要がある。

## **(9) 公園の管理体制の充実**

行政、地元住民、各種団体のパートナーシップ等、相互にやりがいを持って維持管理を行う意識の醸成や、仕組みづくりが必要である。

また、コミュニティ花壇の創設等のソフト施策と連動した仕組みづくりも有効と考える。

## 2-2-2.現況の問題点と課題整理

問題点	課題整理
<b>植栽・景観</b>	<b>植栽景観の育成 (竜田川のみみじ、三室山のソメイヨシノ)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 植栽樹木の生長、常緑樹等の繁茂による展望景観の阻害</li> <li>・ 河川への転落防止のための生垣植栽や中低木植栽等による見通しの阻害</li> <li>・ 三室山のソメイヨシノの樹勢の衰え</li> <li>・ 不十分な植栽環境による竜田川のみみじの育成悪化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ かつてにぎわった景観の再生が必要</li> <li>・ 将来的な植栽の育成を考慮した、樹木の性質に配慮した環境改善（竜田川のみみじ）</li> <li>・ 老木の更新（三室山のソメイヨシノ）</li> </ul>
	<b>展望や見通しの確保</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三室山や堂山地区における植栽樹木の過生長、下草の繁茂等、良好な周辺眺望の景観阻害要因の除去</li> <li>・ 公園の各所における景観改善及びみみじとサクラの名所としての景観再生を行う視点場の整備</li> </ul>
<b>安全性・バリアフリー</b>	<b>安全安心の公園づくり</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園路舗装、手すり、視覚障害者誘導用ブロック等のバリアフリー整備が不十分</li> <li>・ 樹木の過生長による死角場所の発生と不十分な防犯対策</li> <li>・ 生垣の部分的な欠損が見られるなど安全対策が不十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全に通行できる幅員の確保、バリアフリーへの対応</li> <li>・ 死角となる空間や樹木の過生長による暗いイメージの解消など、防犯へ配慮した空間・景観計画の立案</li> <li>・ 安全に配慮した河川への転落防止柵の設置及び川面への見通し確保</li> </ul>
<b>公園施設の利用状況</b>	<b>一年を通じて利用者を誘引する魅力づくり</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者の利用が多く、子供世代の利用者が少ない</li> <li>・ みみじとサクラ以外の時期の利用者が少ない</li> <li>・ 混雑、動線の確保などイベント時への対応が不十分</li> <li>・ 公園と河川の一体利用がなされていない（公園の特色や魅力の発信が不十分）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ みみじとサクラの時期以外にも一年を通して利用者を誘引する魅力づくり</li> <li>・ 四季の植栽による景観演出や日常的に利用できる公園機能の創出</li> <li>・ イベント等、大多数の来訪者に対応した整備</li> <li>・ 河川空間との一体的利用の推進</li> </ul>
	<b>子供から高齢者まで幅広い世代が利用できる魅力づくり、活気のある公園づくり</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域活力の発展に向けた子供世代の利用促進</li> <li>・ 周辺学校の遠足や課外活動のフィールドとして利用できる場所の提案及び地域の教育機関等との連携した計画の立案</li> <li>・ 高齢者が安心して利用できる空間の創出、景観づくり</li> <li>・ 幅広い世代が利用できる魅力づくり、活気のある公園づくり</li> </ul>

問題点	課題整理
<b>施設機能と老朽化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常的な公園利用、観光地としての観点からも“おもてなし”の機能が不十分</li> <li>・ 堂山橋、紅葉橋から展望の良い堂山地区上部への園路が不明確</li> <li>・ 園路の歩行者への配慮（勾配急、統一性の無い幅員及び素材、経年劣化）が不十分</li> <li>・ ベンチ等の休憩施設の不足や老朽化</li> <li>・ 地域資源を活かした視点場や公園情報を提供するサイン等のサービス施設が不十分</li> <li>・ 全体的にサインの存在がわかりにくく、設置数も少ないことから、公園の魅力を伝える情報が不足</li> <li>・ 様々な形式の公園利用に関する注意サインが景観的な魅力や心地よい利用環境を損ねている</li> <li>・ 紅葉橋と堂山橋の老朽化への対応が不十分</li> </ul>	<b>サービス機能の向上</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常的な公園利用者及び観光客へのおもてなしとしてのベンチ等のサービス施設の充実</li> <li>・ 休憩施設や来訪者の移動を支援するサイン等の情報提供の機能の充実</li> <li>・ 老朽化施設の改修による公園のイメージアップ</li> </ul>
<b>観光情報、ネットワーク、アクセス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法隆寺や藤の木古墳等の知名度の高い観光地との連携や既設定観光ルートとの連携が不十分</li> <li>・ 公園入口への公園名板等の未設置</li> <li>・ 駐車場の容量不足</li> </ul>	<b>観光情報や歴史街道散策ネットワークとの連携・観光情報の提供</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公園単独での取組に加え、周辺観光資源との連携、ネットワーク化の推進</li> <li>・ 広域的連携の中で、情報発信のツールを見直し及び県と周辺市町との連携の充実</li> </ul> <b>アクセス機能の改善</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史街道散策ネットワークや観光ルート等との連携によるアクセス機能の補完</li> <li>・ 公共交通による来訪の呼びかけや、周辺駐車場との連携</li> </ul>
<b>維持管理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設備の計画的な維持管理の未達（応急処置的な対応に留まっている）</li> <li>・ 定期的な灌水、草刈り、剪定等が必要であるが体制の構築が不十分</li> <li>・ 植栽管理状況のバラツキ</li> </ul>	<b>公園の管理体制の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政、地元住民、各種団体のパートナーシップ等の仕組みづくり</li> <li>・ コミュニティ花壇の創設等のソフト施策と連動した仕組みづくり</li> </ul>

---

### 2-2-3.現況の問題点～課題整理の位置

現況の問題点の位置を次ページに示す。

## 問題点位置図

